

経営比較分析表（平成30年度決算）

岐阜県大垣市 大垣市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	28	対象	ド透I未訓ガ	救臨が感災地
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
161,539	79,046	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

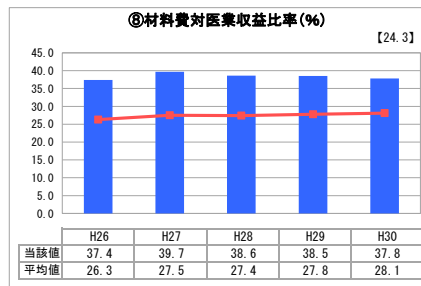
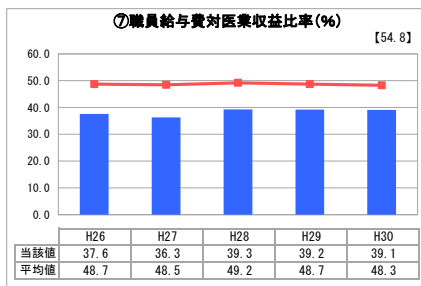
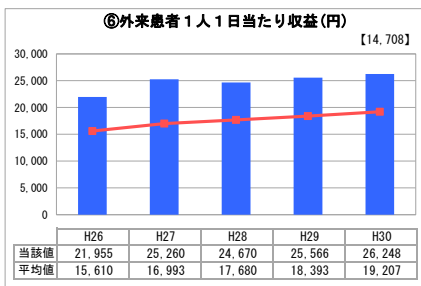
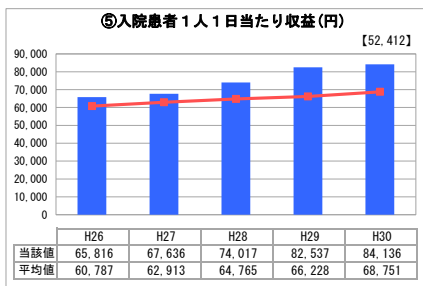
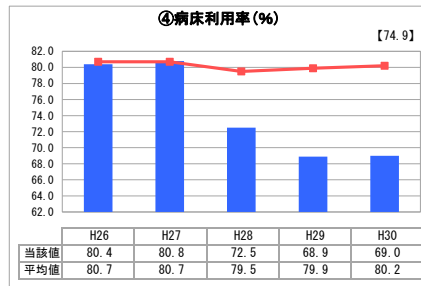
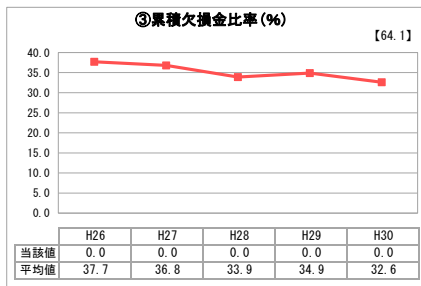
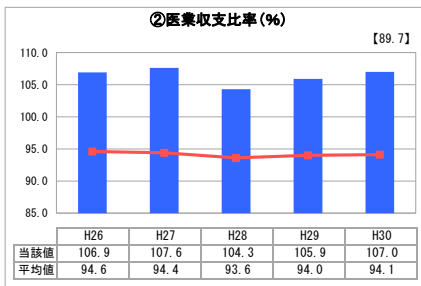
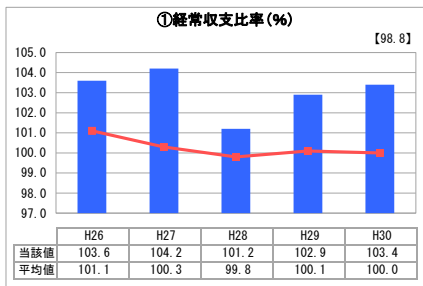
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
857	-	40
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	6	903
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
788	-	788

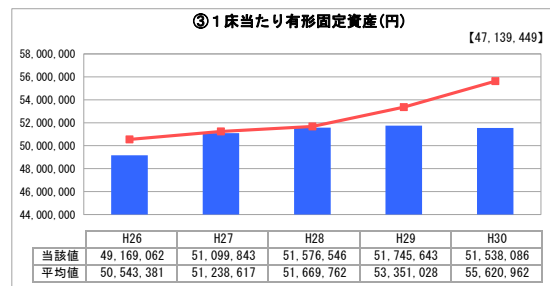
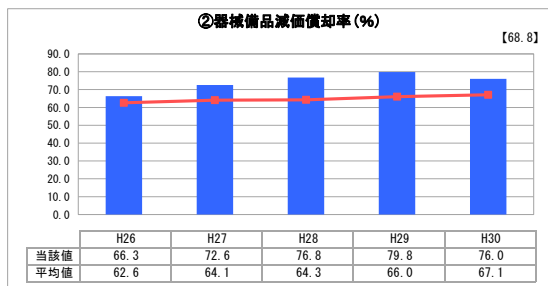
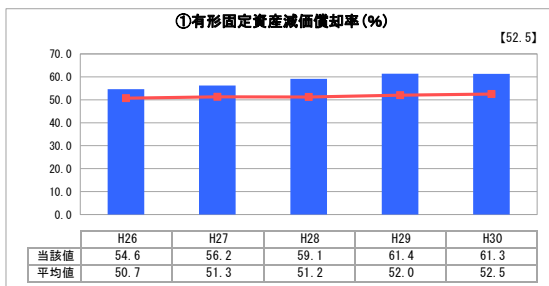
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

西濃医療圏域の中核的基幹病院として、高度で専門的な医療施設や医師・歯科医師臨床研修病院の環境を整備しており、西濃医療圏内唯一の救命救急センターでは、24時間体制で一次から三次までの救急医療を実施するとともに、地域がん診療連携拠点病院をはじめ、地域災害拠点病院、岐阜県地域周産期母子医療センター、小児救急医療拠点病院等の指定・認定を受け、質の高い医療を提供しています。
今後も圏域において、高度医療及び急性期医療の中心的役割を果たしてまいります。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

病院事業全体の収益、費用とも増加傾向が続いていますが、総収支比率100%を上回っており、黒字経営を維持しています。
29年6月に7対1看護体制を導入し、重症患者の一定割合の基準を満たすための病床運営や看護師の増員を行うことにより、現在入院収益や入院患者1人1日当たり収益も増加しております。
今後もDPC制度を正しく理解・運用することで、診療行為に見合った診療報酬請求に努め、収入増加・確保を図るとともに、業務の効率化や委託業務の見直しを実施し、経費削減に努めます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、機械備品減価償却率ともに平均値を上回っており、老朽化が課題となっています。
病院施設の整備や、高度医療機器の導入等については、費用対効果を見極めながら、計画的に推進していきます。

全体総括

現在の経営状態は安定しており、病院の事業規模については、地域住民に求められる医療機能を維持するため、現況の体制維持に努めます。
また、平成29年3月に策定した「大垣市民病院改革プラン」(計画期間:平成29~令和2年度)に基づき、引き続き専門的かつ安心して安全な医療を提供するとともに、公共性と経済性を両立し、健全な病院経営に努めます。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。